

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援センター 音色学園		
○保護者評価実施期間	令和7年2月25日		～ 令和7年3月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年3月3日		～ 令和7年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに寄りそった丁寧な支援	子どもの特性やペースを大切にしながら、丁寧な支援を心がけている。遊びや活動を通して、その子らしさを引き出せるよう日々工夫を重ねている。	支援内容の見直しや振り返りの機会を定期的に設け、より質の高い支援が提供できるよう職員間での情報共有や学びを深めていく。
2	適切な職員配置による安定した支援体制	利用定員に応じた職員配置を行うことで、安全な環境づくりに努めている。職員一人ひとりが丁寧に関われる時間を確保しやすく、安心感のある支援につながっている。	日々の業務の中で役割分担や連携方法を見直しながら、職員全員が安心して支援に集中できるような体制づくりをさらに強化していく。
3	保護者との丁寧なコミュニケーション	お子様の支援は保護者の方との信頼関係が土台になると考え、日々のやりとりや相談対応を丁寧に行っている。ちょっとした気づきや変化も共有しながら、家庭と連携した支援を大切にしている。	連絡帳や面談の加えて、電話やLINEなども活用しながら、保護者の方が気軽に相談できるような環境づくりを意識しているが、今後も保護者の声にしっかり耳を傾け、より双方向の関係を築けるよう努めていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援に対する視点や理解深さに個人差がある	職員間の話し合いや連携は丁寧に行われ、チームとして支援に取り組む体制は整っている一方で支援に対する視点や実践の深さに個人差が見られる場面もある。	今後は共通の支援観をさらに深めていけるよう、継続的な学びや振り返りの機会を大切にしていきたい。
2	ICTやデジタルツールの活用がこれからの課題	支援や事務業務の中のアナログの手法において、効率化や職員の負担軽減の面で改善の余地がある。	アナログの部分とバランスをとりながら、少しずつICTの活用を進めることで、支援の質向上や働きやすい環境づくりにつなげていきたい。
3	地域への情報発信や新たなつながりの余地	地域の学校や関係機関との連携は丁寧に築けているが、地域の方へ向けた情報発信には、さらなる工夫できる点があるのではないかと感じている。	事業所の雰囲気や取り組みがより伝わるような発信を通じて、地域にとってより身近で開かれた存在を目指していきたい。